

内容 ~ 1.はじめに

2. 名高田高架橋他1橋(下部工)工事の2箇所で作業着手しました。
3. 加原遺跡(大宮)の現地見学会を開催しました。

1.はじめに

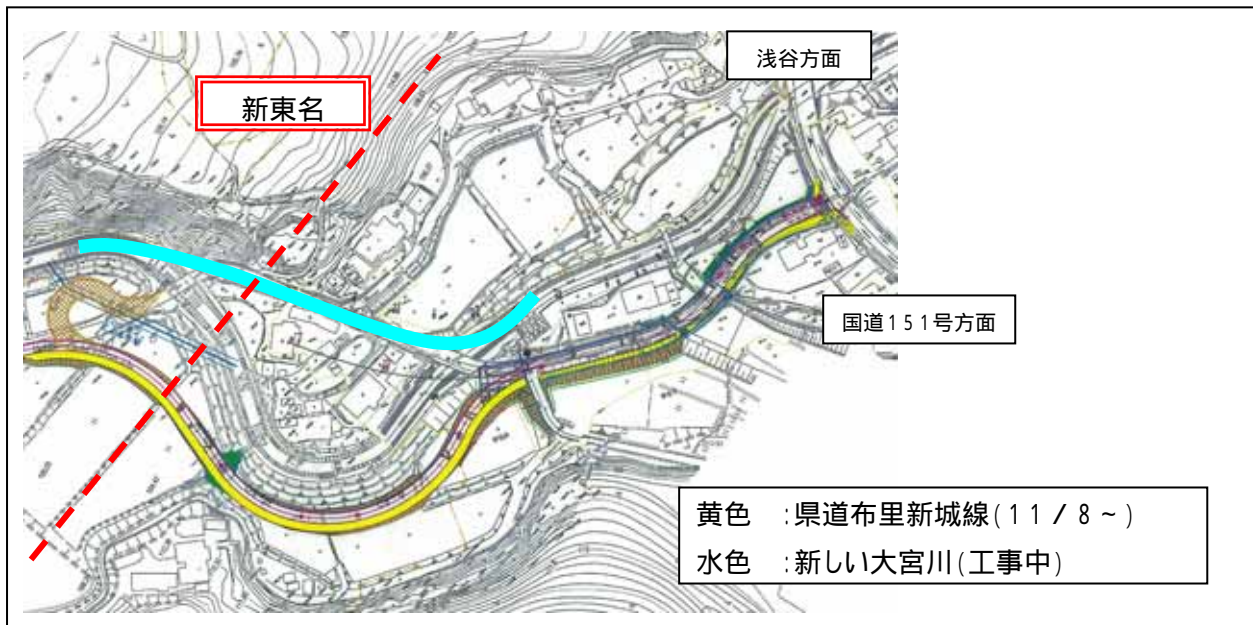
中日本高速道路豊川工事事務所新城東工事区の工事長、鈴木でございます。年が改まりました。今年もよろしくお祈いします。平成21年最初の「新東名 新城東地区 NEWS」をお届けします。

2. 名高田高架橋他1橋(下部工)工事の2箇所で作業着手しました。

「名高田高架橋他1橋(下部工)工事」の2箇所で作業着手しました。

1箇所は、牛倉地区の大宮川付替作業で現大宮川の替わりに新しい大宮川をつくるものです。もう1箇所は須長地区の名高田高架橋P7橋脚基礎杭部の準備(整地)です。

牛倉地区では作業着手に先立ち、11月8日に県道布里新城線を「大宮川の西側のルート」に切り替えました。11月18日から元の県道の位置に新しい大宮川をつくる作業を始めました。



なお、ご存知かと思いますが、この工事を担当する「オリエンタル白石株式会社」は11月26日に会社更生手続開始申立をし、保安全管理人のもと経営再建することとなりました。着手しましたが、すぐ工事中止となりました。手続きが整い、年明けに工事再開の予定です。皆様には、ご心配をおかけしました。今後ともよろしくお祈いします。

3. 加原遺跡(大宮)の現地見学会を開催しました。

新東名の工事に先立ち、埋蔵文化財調査を愛知県埋蔵文化財センターで実施中とこれまで2回お伝えしてきました。牛倉の「吉竹遺跡」、須長の「石岸遺跡」に引き続き、3箇所目の現地見学会として、大宮の「加原遺跡」の現地見学会を11月15日(土)に実施しました。当日は雨がぱらつきましたが、85名(センター調べ)の方においでいただきました。今回はこの「加原遺跡」についてご紹介します。

加原遺跡では平安～鎌倉時代の集落跡が確認されました。竪穴住居が多数見つかりました。くぼ地を埋めたりする大規模工事がこの時代にされていたことがわかります。

土器や陶器など平安時代の生活道具が出土しました。皿(さら)、椀(わん)、壺(つぼ)、甕(かめ)などの食器として使われたものです。縄文土器や古墳時代の土器、石斧などの石器も出土しました。この他、信州産と思われる土師器が見つかりました。周辺地域との交流を物語るものです。(以上、資料より)

②出土した生活道具

加原遺跡では、主に平安時代の土器や陶器などが出土しました。種類は皿(さら)・椀(わん)・壺(つぼ)・甕(かめ)で、食器として使われていたものです。また縄文土器や古墳時代の土器も少しですが出土しています。石器では石鏃(せきぞく)や石斧(せきふ)が出土しました。また鉄滓(てっさい)と呼ばれる鉄を作る時にできる鉄の滓けかすも多数出土しました。これらの他に周辺の交流を物語るものとして信州産と思われる土師器が出土しています。

